

ここにいてその人を大切にす

ユースポート横濱

# Empowerment

---

よこはま若者サポートステーション 2023 年度報告書

---

VOL.17

運営団体:認定NPO法人ユースポート横濱



## はじめに

2023年度も皆様のご支援のおかげで、安定した事業運営を続けることができました。この場をお借りして、まずはお礼申し上げます。

振り返ってみると、2023年度はバックオフィスの充実に力を注いだ一年でした。ユースポート横濱は、2023年度より新たに藤沢市若者サポート事業・若年者就労支援事業を受託いたしました。これに伴い職員の移動頻度が増えたことや、ICTのさらなる活用を模索する中で、よこはまサポステを含む各事務所にフリーアドレス制度とグループウェアを導入しました。導入からまもなく1年が経過しますが、初期費用や職員の負担を考慮しても、業務効率化の面で大きな成果を上げることができたと思います。

また、職員の待遇改善にも取り組みました。近年の物価上昇は、利用者だけでなく、日々支援に尽力する職員にとっても大きな負担となっています。2023年度は、物価手当の支給に加え、2024年度からの賃金アップに向けた給与体系の改定に着手しました。サポステ事業が総合入札制度であることは周知の通りであり、事業収入の増額は見込めません。それどころか、次期の受託がかなうかどうか、かなったとしても十分な人件費を確保できるかどうかは、大変不透明です。その点については、質の高い支援を届けるためには職員が安心して働ける雇用環境でなければならないということ、引き続き発信していく所存です。この度は上述のような効率化の取り組みを行うことなどにより、なんとか2024年度からの給与アップの見通しを立てることができました。

2024年1月にはユースポート横濱は認定NPO法人になりました。わたしたちの出発点はサポートステーション事業であり、今後も本事業を担い続けたいと強く思っています。これからも皆様のご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

2024年5月吉日  
よこはま若者サポートステーション  
施設長 池田彩子



# 目 次

第1章 2023年度事業実績（統計）	1
1. 2023年度新規登録者の概要	3
（1）支援につながった経緯	3
（2）職業経験の有無	3
（3）最終学歴	4
（4）生活保護受給者の割合	4
2. 進路決定実績	5
3. 開所からの推移	6
（1）総利用者延べ数	6
（2）新規登録者数	6
（3）新規登録者の男女比	7
（4）新規登録者の平均年齢	7
（5）新規登録者の居住地	8
第2章 2023年度事業報告	11
1. 入口事業報告	13
2. 相談事業報告	19
3. プログラム事業報告	23
4. 出口事業報告	27
別添：認定NPO法人ユースポート横濱の活動報告	33
1. ユースサポート・ユースワークふじさわの受託・開設	35
2. 「ユースポート横濱 ロジックモデル」の作成～社会的価値の可視化を目指して～	36
3. 全体会議研修報告	39



## 第1章 2023年度事業実績（統計）

---

---

---

---

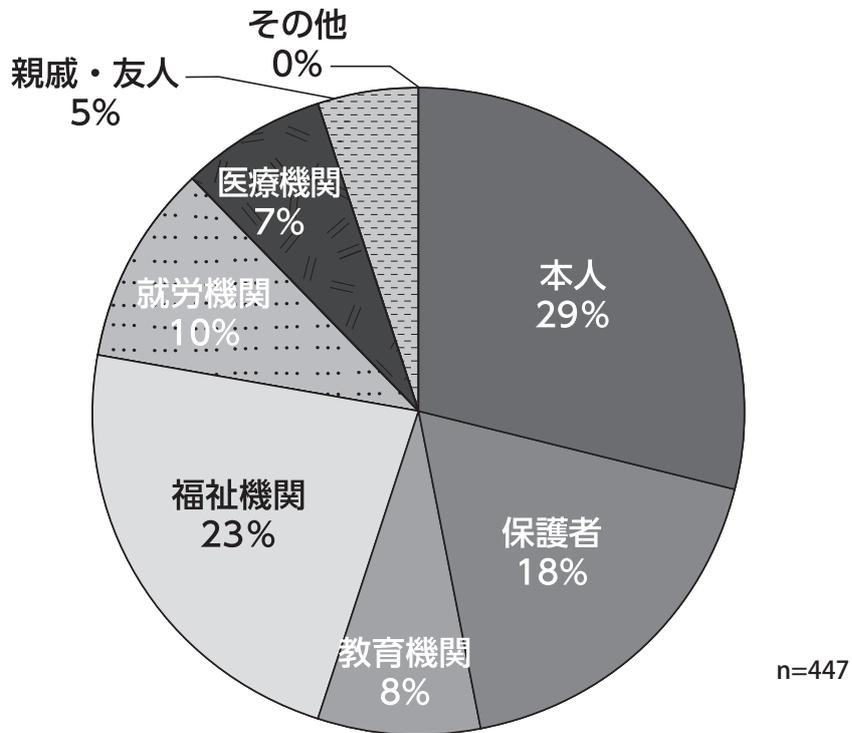
＊第1章の統計は、よこはま若者サポートステーション事業（厚生労働省）、横浜市若者サポートステーション事業（横浜市）、生活困窮状態にある若者に対する相談支援事業（横浜市）の実績を取りまとめた形で報告する。

---

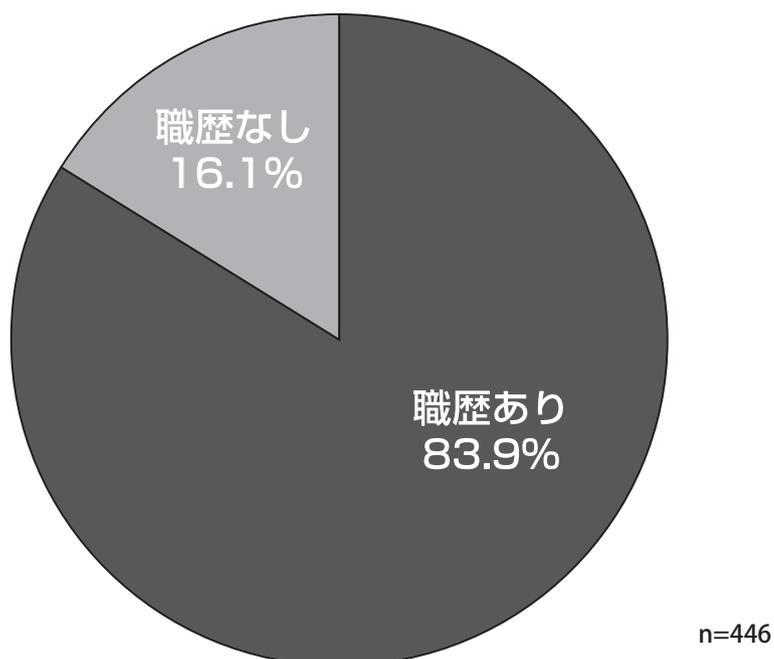
---

## 1. 2023年度 新規登録者の概要

### (1) 支援につながった経緯



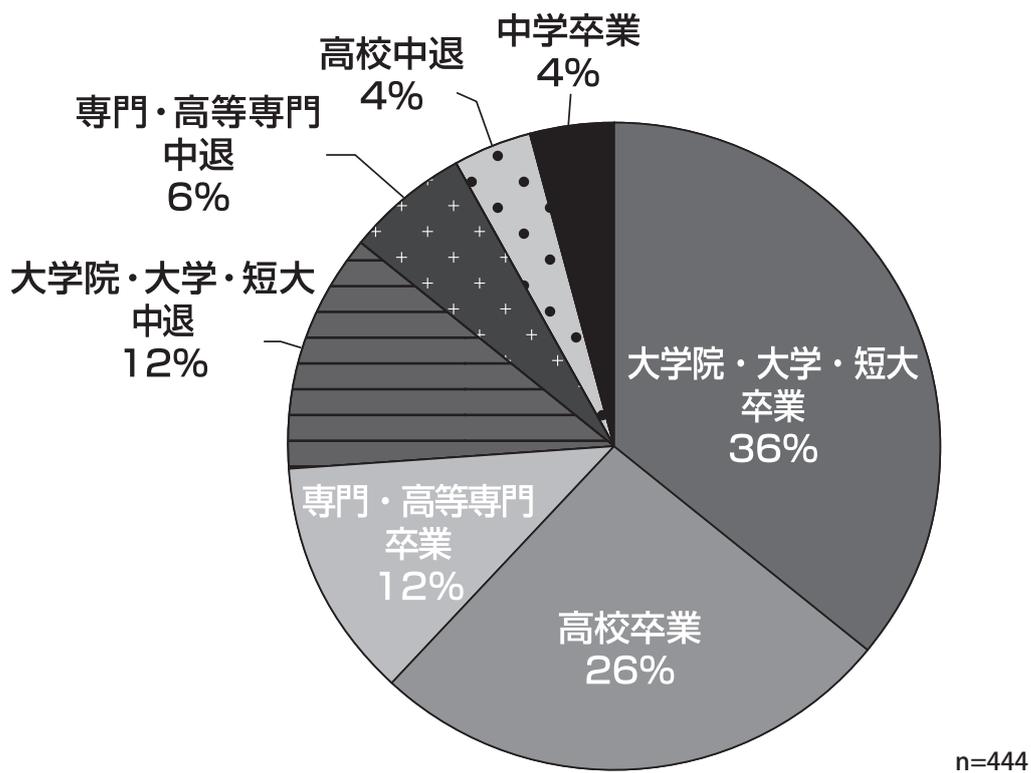
### (2) 職業経験の有無



※未聴取1件はグラフに含めず

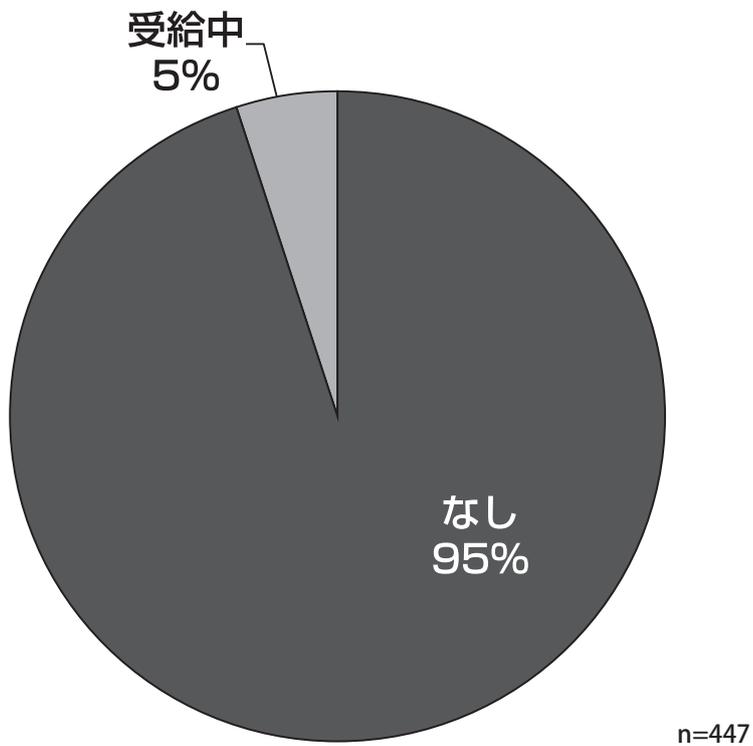
※「職歴あり」は、正規、非正規等の雇用形態、長期、短期等の期間は問わず

(3) 最終学歴



※未聴取5件はグラフに含めず  
※在学中の人は卒業したと推定される学歴に加算（例：高校在学中は中学卒業に加算）

(4) 生活保護受給者の割合



## 2. 進路決定実績

進路決定実績（件数）

正規（一般）		69
正規（障害枠）		8
非正規長期（一般）	週20時間以上	97
	週20時間未満	141
非正規長期（障害枠）	週20時間以上	6
	週20時間未満	1
非正規短期		78
職業訓練		16
進学		6
その他		0
計		422

正規・非正規長期のみの進路決定内訳（件数）

	正規 （一般）	正規 （障害者枠）	非正規長期 （一般）	非正規長期 （障害者雇用）	合計（人）
事務従事者	22	7	52	4	85
販売従事者	4	0	70	0	74
サービス職業従事者	13	0	57	0	70
保安職業従事者	0	0	0	0	0
農林漁業従事者	0	0	0	0	0
生産工程従事者	7	1	25	0	33
運転従事者	1	0	5	0	6
建設従事者	2	0	1	0	3
運搬従事者	2	0	30	0	32
清掃従事者	0	0	18	1	19
上記で分類できない職種	14	0	12	2	28
その他詳細不明	4	0	7	0	11
計	69	8	277	7	361

### 3. 開所からの推移（統計）

#### (1) 総利用者延べ数（開所からの推移）

(人)

年度	総受益者			若者			保護者			その他（支援者等）		
	計	よこはま	サテライト	計	よこはま	サテライト	計	よこはま	サテライト	計	よこはま	サテライト
2023年度	15,332	13,364	1,968	14,021	12,218	1,803	429	382	47	882	764	118
2022年度	15,429			14,073			455			901		
2021年度	14,878			13,866			425			587		
2020年度	13,070			12,446			234			390		
2019年度	13,482			12,069			526			887		
2018年度	15,318			13,670			610			1,038		
2017年度	14,586			12,980			590			1,016		
2016年度	13,994			12,773			560			661		
2015年度	13,777			12,558			506			713		
2014年度	14,210			13,042			510			658		
2013年度	13,426			12,106			616			704		
2012年度	10,670			9,121			504			1,045		
2011年度	11,273			9,914			452			907		
2010年度	11,463			9,917			553			993		
2009年度	10,960			9,380			592			988		
2008年度	9,833			8,287			866			680		
2007年度	9,503			7,754			825			924		
2006年度	2,409			1,927			207			275		
総計	223,613			199,904			9,460			14,249		

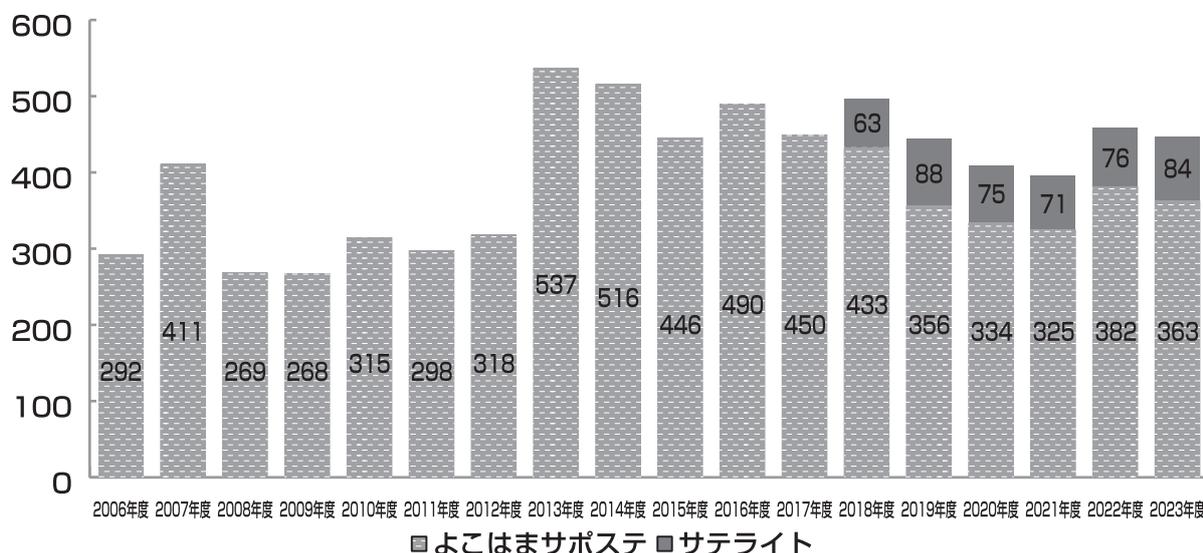
※若者は、個別相談、同行支援、ケースカンファレンス参加の延べ人数、プログラム参加延べ人数の総計

※保護者は、若者支援に付随する個別相談、同行支援、ケースカンファレンス参加の延べ人数、保護者説明会参加延べ人数の総計

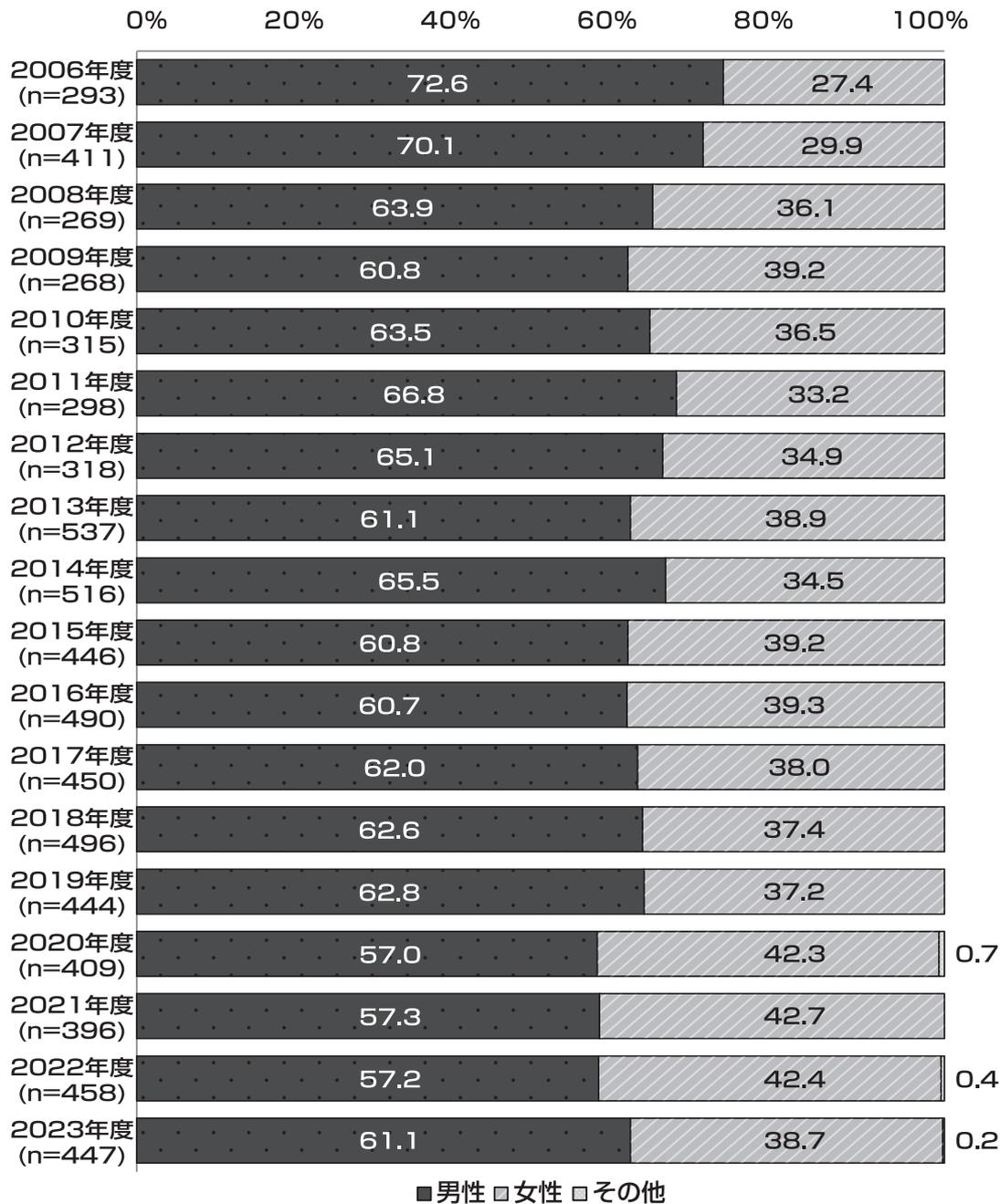
※その他（支援者等）は、若者支援に付随する個別相談、同行支援、ケースカンファ参加の延べ人数、サポステ説明会や視察、ヒアリング等の来所延べ人数の総計

#### (2) 新規登録者数（再登録者を除く）

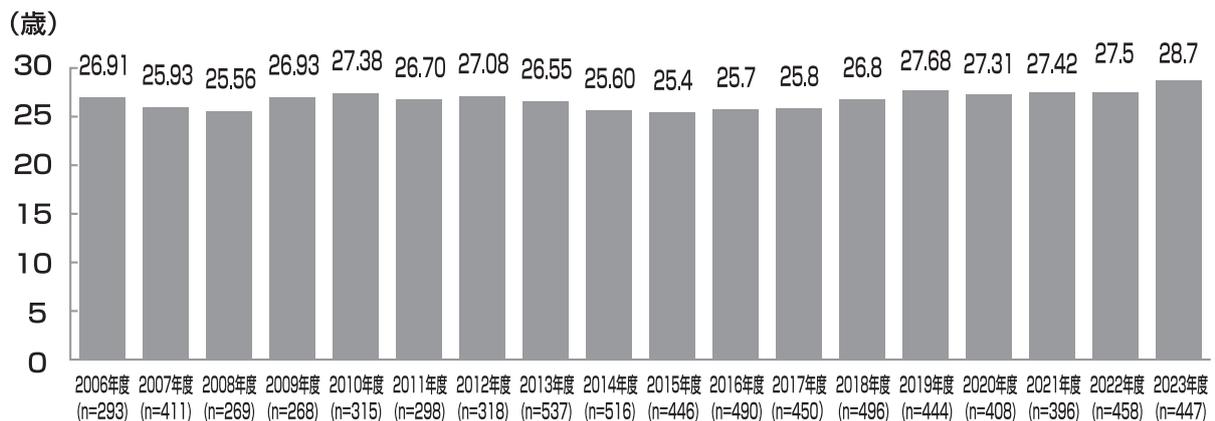
(人)



(3) 新規登録者の男女比



(4) 新規登録者の平均年齢



(5) 新規登録者の居住地

横浜市内（区別）年度推移

	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	合計(人)
鶴見区	13	22	7	8	20	15	15	25	19	22	24	27	25	19	19	31	25	32	368
神奈川区	16	11	7	16	20	12	24	26	35	33	27	22	26	30	21	31	32	26	415
西区	8	8	1	3	4	5	9	17	9	13	10	9	12	8	10	10	17	18	171
中区	4	7	3	6	9	6	15	12	18	13	17	12	14	14	6	16	10	16	198
南区	14	20	10	14	14	13	13	23	31	39	22	18	34	19	22	18	23	28	375
保土ヶ谷区	14	18	10	5	17	18	13	31	26	40	30	27	25	16	28	18	29	31	396
磯子区	10	21	4	9	12	3	18	21	19	21	21	22	14	15	11	9	12	11	253
金沢区	12	18	9	13	10	11	11	31	22	23	29	30	29	17	27	19	20	24	355
港北区	10	24	16	19	20	16	21	33	37	41	30	35	38	29	35	40	30	38	512
戸塚区	11	22	7	12	20	16	10	22	35	33	38	24	25	24	16	17	28	21	381
港南区	19	17	12	12	12	11	12	22	28	25	18	26	20	21	23	20	19	21	338
旭区	17	20	12	12	13	19	24	36	36	49	29	27	33	22	29	30	29	30	467
緑区	12	7	6	6	10	9	7	13	23	34	21	17	17	25	24	21	31	19	302
瀬谷区	6	8	7	10	8	11	21	22	18	18	21	17	21	12	8	14	16	9	247
栄区	7	5	9	4	3	8	3	8	4	5	8	13	4	4	5	2	7	5	104
泉区	6	11	5	12	21	10	14	20	20	26	18	17	20	21	13	13	18	20	285
青葉区	14	16	14	7	13	19	4	28	18	19	16	12	28	15	14	9	26	18	290
都筑区	3	7	7	7	8	12	11	18	18	32	17	18	24	22	22	18	14	18	276
合計	196	262	146	175	234	214	245	408	416	486	396	373	409	333	333	336	386	385	5733

## 横浜市外 年度推移

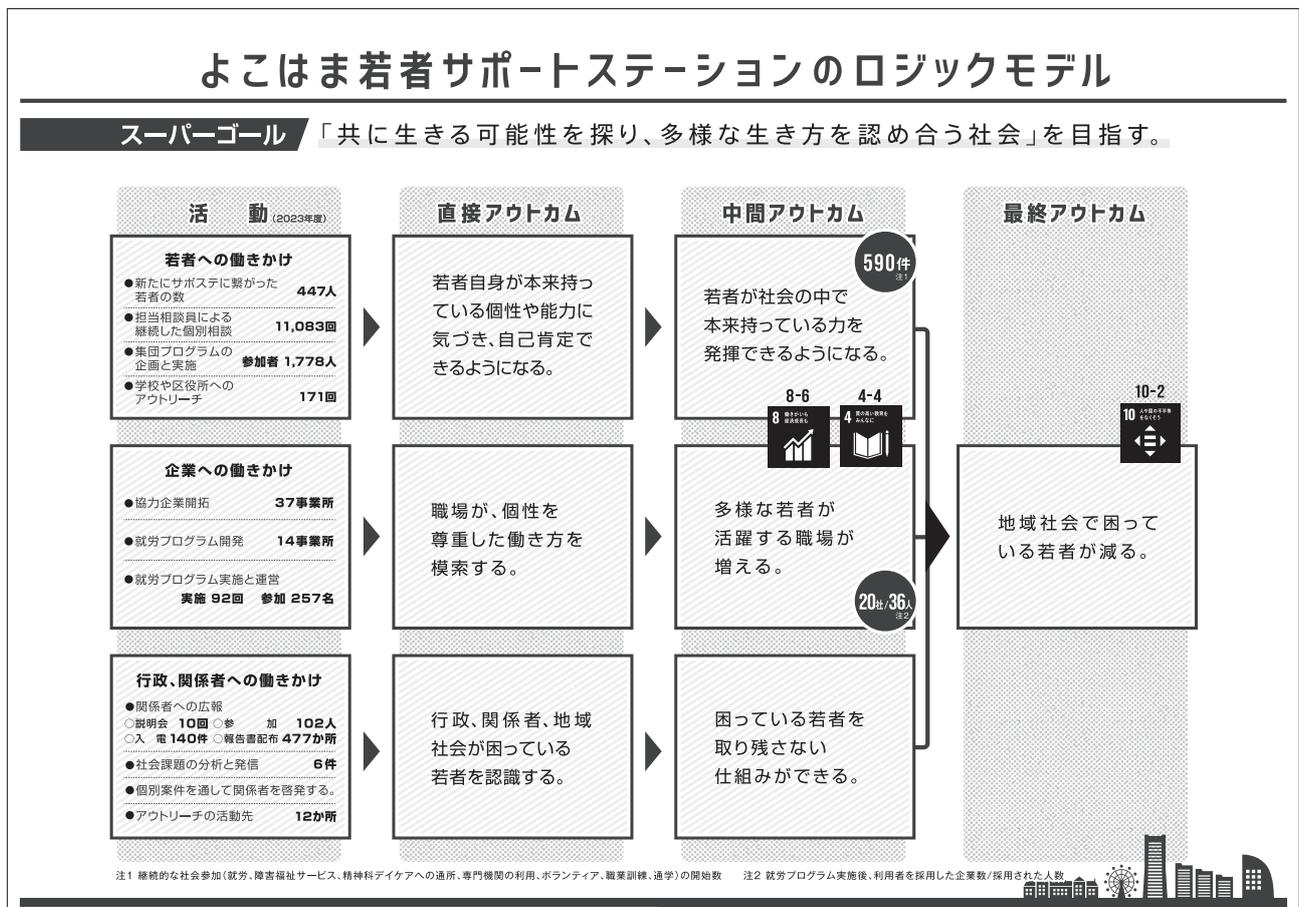
	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	合計
川崎市	16	25	24	21	12	14	10	20	16	32	12	7	8	11	10	9	11	6	264
横須賀市	8	10	13	8	9	8	13	24	20	31	27	18	18	11	19	19	15	12	283
東京都	16	15	19	6	6	7	6	17	12	15	7	10	12	21	13	9	14	15	220
藤沢市	8	22	18	17	7	8	4	9	5	14	8	7	13	15	7	4	5	5	176
大和市	1	8	3	4	4	6	8	13	12	13	5	6	7	14	3	4	5	2	118
相模原市	6	11	8	5	1	6	1	5	6	8	3	3	4	5	2	1	3	3	81
海老名市	4	4	5	3	3	2	5	4	1	8	5	5	5	4	1	1	2	1	63
逗子市	3	4	5	4	5	5	2	0	3	4	6	0	1	3	4	0	2	3	54
県内郡	4	5	2	3	3	5	2	3	4	6	1	0	1	7	4	0	1	0	51
厚木市	4	6	3	1	6	4	3	2	0	2	2	2	2	2	1	3	1	0	44
平塚市	4	5	3	2	3	1	4	5	2	6	6	4	2	2	2	0	2	2	55
鎌倉市	3	2	4	3	4	4	3	2	3	5	1	3	1	2	3	4	1	2	50
座間市	2	4	2	4	2	3	1	3	6	3	1	3	0	1	1	0	2	1	39
綾瀬市	2	0	3	0	3	2	2	7	3	2	2	0	2	3	0	3	3	0	37
伊勢原市	1	5	0	1	3	3	4	4	0	2	0	1	1	0	0	0	0	1	26
茅ヶ崎市	7	5	0	0	0	0	4	5	0	10	2	3	3	4	5	1	2	6	57
秦野市	2	7	2	1	5	1	1	1	0	1	1	0	3	3	0	0	1	0	29
小田原市	3	4	5	2	2	1	1	1	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	23
三浦市	0	0	0	1	1	2	2	2	2	0	2	2	2	2	0	1	1	0	20
千葉県	1	1	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	5
静岡県	1	1	0	0	0	0	0	0	2	0	0	1	0	0	0	0	1	0	6
南足柄市	0	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	4
茨城県	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	3
京都府	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2
宮城県	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	3
埼玉県	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	3
兵庫県	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
富山県	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
愛知県	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
北海道	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
長野県	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
未聴取	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	2
計	97	146	122	89	80	83	76	127	100	164	94	77	87	111	76	60	72	62	1723

## よこはま若者サポートステーションのロジックモデル

よこはまサポステでは、日々の活動の意義を職員全員で可視化、共有し、その意義や社会的価値を外部に分かりやすく伝えるため、また継続的に事業を見直すためのツールとして、2020年度よりロジックモデルを作成している。

活動の成果やアウトカムについて、2023年度の実績（指標）を含めて表した「よこはま若者サポートステーションのロジックモデル」を以下に示す。

また、2023年度には、このモデルとは別に、運営団体であるユースポート横濱のすべての事業を対象とする「認定NPO法人ユースポート横濱 ロジックモデル」も作成した。その内容や作成のプロセスは、別添「2.「ユースポート横濱 ロジックモデル」の作成～社会的価値の可視化を目指して～」を参照いただきたい。



## 第2章 2023年度事業報告

---

---

---

よこはま若者サポートステーションの支援は、個別相談、プログラム、地域ネットワークとの連携の3本の柱で構成されている。地域ネットワークとの連携について「サポステ利用の入口をより広く、サポステから就労への出口をより多く」できるよう、連携の目的ごとに「入口事業」と「出口事業」の2つに整理し、それぞれに携わる職員の役割分担を明確にして各事業に取り組んでいる。



第2章では、①入口事業、②相談事業、③プログラム事業、④出口事業について、事業ごとの取り組みとその実績を報告する。

---

# 1. 入口事業報告

入口事業は、よこはまサポステを利用する若者や保護者、その紹介元である地域の支援者、学校関係者に対して、効果的かつ効率的な受け入れ体制を整える役割を担うものである。対外的には(1) 地域ネットワークとの「連携窓口」として支援者・学校関係者からの相談申込・問合せへの対応、(2) よこはまサポステ説明会や各種セミナーの開催といった「広報活動」、(3) 学校や区役所への「出張相談」の3つを実施し、多くの若者が出来るだけスムーズにサポステ支援につながるための取り組みを行っている。

以下、入口事業の実績を(1) 連携窓口、(2) 広報活動、(3) 出張相談の順にその取り組み内容を報告する。

## (1) 連携窓口

---

よこはまサポステでは、他機関からの紹介で利用開始に至る場合は、利用者本人や保護者からの直接の連絡でなく、可能な限り事前に担当の支援者からご連絡いただくようお願いをしている。事前に支援者との間で、サポステの支援内容、その他支援機関の利用可能性について擦り合わせておくことで、本人に不利益となるミスマッチを防ぎ、サポステやその他適切な支援機関につなぐことができる。

下表は、地域の支援者からの相談申込・問合せ連絡件数を各機関の種別ごとに集計したものである（教育機関に関する実績は(3) 出張相談の「①学校連携事業」で集計）。

本件数には、よこはまサポステの相談申込に至った連絡に限らず、ニーズや状況、期待する支援内容を聴き取った結果、より適切と考えられる他機関を紹介したものも含まれる。

他機関からの相談申込・問合せ件数

連携先	申込・問合せ件数		
	2021年度	2022年度	2023年度
市内生活支援課（生活保護）	13	26	31
市内生活支援課（生活困窮）	3	7	
市内高齢・障害支援課	2	2	1
横浜市青少年相談センター	8	20	24
地域ユースプラザ（区役所出張相談含む）	1	6	6
かながわ子ども・若者総合相談センター	2	2	3
就労支援機関 （ハローワーク、かながわ若者就職支援センター、職業訓練校など）	4	6	13
男女共同参画センター	—	—	2
医療機関	4	16	17
障害に関する支援機関 （発達障害者支援センター、就労支援センター、基幹相談支援センター、就労移行支援事業所など）	19	14	24
少年・児童関連 （横浜家庭裁判所、児童相談所など）	5	4	9
その他（横浜市外の市役所、他団体、他サポステなど）	8	10	10
申込・問合せ件数合計	69	113	140

2023年度の特徴として、問い合わせの件数が前年度よりさらに増加し、コロナ禍以前の水準に戻ったことが挙げられる。

連携先種別による特徴に目を向けると、医療機関からの問い合わせは前年に引き続き多く、青少年相談センターからの問い合わせは微増した。これは、コロナ禍の影響から完全に脱したことから、通院中の方や、社会参加の準備を行っていた若者も積極的に就職活動を検討するようになった影響と考えられる。

また、就労支援機関からの問い合わせがやや増加した。この背景としては、今年度近隣のハローワークの職員の方を対象にサポートステーションの説明会を実施した（詳細は後述する）効果と言えよう。

## (2) 広報活動

広報活動の軸として「よこはまサポステ説明会」を毎年度実施している。多くの支援者、学校関係者と直接顔を合わせる機会を設け、地域の支援者の方々によこはまサポステの機能や雰囲気を知っていただくことで、支援者の方を通して、より多くの若者によこはまサポステを知ってもらうことを目的とする。

説明会の開催にあたっては、横浜市内18区役所やハローワーク、医療機関、基幹相談支援センター、地域ケアプラザ（横浜市独自の地域福祉・保健拠点）、学校関係者、就労支援機関などの関係機関宛に案内を郵送した。説明会の内容は、よこはまサポステの支援内容や実績、事例の紹介、利用の仕方の案内である。

以下に、サポステ説明会やセミナーの開催などの広報活動の実施回数の推移を示す。

よこはまサポステ主催説明会 実施回数・人数

	2021年度		2022年度		2023年度	
	実施回数	参加人数	実施回数	参加人数	実施回数	参加人数
支援者対象（対面） ※ハローワークプラザよこはま向け実施 1回を含む	0	0	8	99	10	102
支援者対象（オンライン）	7	7	0	0	0	0
保護者対象（対面）	—	—	1	5	0	0
計	7	7	9	104	10	102

2023年度も全ての説明会を対面形式で実施することが出来た。新たな取り組みとして、よこはまサポステと同じ建物内にあるハローワークプラザよこはまの職員の方向けの説明会を実施した。通常の内容に加え、同じ施設内であるからこそ可能となる連携方法について、職員の方からのご意見も伺いつつ案内を行った。

この取り組みから派生する形で、ハローワークプラザよこはまの利用者の方向けの説明会も実施した。初の実施で参加者2名と小規模な開催となったものの、お二方とも初回相談の予約につながり、適切な案内が出来たと言える。

その他のサポステに関する説明の機会として、「ソーシャルワークの視点を持った教員の養成研修」（神奈川県立総合教育センター主催）に講師として、「不登校児童・生徒、高校中退者等のための不登校相談会・進路情報説明会」（神奈川県教育委員会子ども教育支援課主催）に相談員として、前年に引き続き参加した。さらに区の保健福祉センターから依頼を頂き職員の方の方向けのサポステ説明および発達障害についての研修を実施した。

**(3) 出張相談実績**

次に、県立高校への定期訪問を含む「学校連携事業」と泉区生活支援課での出張相談を主とした「泉区における就労困難な若者の社会参加促進事業」の実績を報告する。

**①学校連携事業**

学校連携事業では、若者が抱える困難が長期化・複雑化する手前で支援することの重要性、特に学校教育から離れる移行期における支援の大切さを踏まえ、在学中から中退、卒業後に至るまで切れ目のない支援を届けることを目指している。

主な事業内容としては、学校関係者（教職員や就職担当者、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなど）からの相談申込・問合せに対応する他、校内での相談やセミナーを実施している。県立高校全日制1校・定時制2校での月1～2回の定期訪問である。学校連携事業の連携校数の推移は以下である。

## 学校連携事業実績

	2021年度	2022年度	2023年度
連携学校数 ※年度内に連絡をとった学校	35	33	37
うち定期訪問実施校	3	3	3
うちセミナー実施校	5	5	5
うち新規登録学生の在籍校	30	28	33
新規登録学生数 ※学校連携事業を経由してよこはまサポステ登録につながった学生数	54	38	47

## 学校連携セミナー実施回数

	2021年度	2022年度	2023年度
学校関係者対象セミナー	1	1	2
学生・生徒対象セミナー	7	8	3
保護者対象セミナー	2	2	1
計	10	11	6

2023年度内に連携した学校は、計37校と概ね例年通りの数であった。生徒向けのセミナー実施回数については減少した。これは主に定時制や工業高校からの依頼が減ったことによる。

生徒数の減少、学校自体の統廃合など、教育機関の状況にも変化がみられるが、今後も支援者説明会を中心に、サポステの支援内容や対象となる生徒・学生像を学校関係者に丁寧に伝え、情報共有を図っていくよう心掛けたい。

## 県立高校における定期訪問実績

	田奈高校			横浜翠嵐高校（定時制）			希望ヶ丘高校（定時制）		
	2021年度	2022年度	2023年度	2021年度	2022年度	2023年度	2021年度	2022年度	2023年度
定期訪問回数	16	16	16	20	16	14	12	13	15
延べ相談件数	35	29	28	42	38	25	31	38	28
相談利用学生数	15	9	6	10	7	5	9	14	9
うちよこはまサポステ登録につながった人数	1	2	0	3	5	5	2	6	2

定期訪問校に関して、訪問回数や相談件数は概ね横ばいであるが、利用学生数は全般的に減少している。

上記の生徒の利用が減少している背景に、2026年度より横浜翠嵐高校定時制の募集停止が決定した影響による生徒数自体の減少が挙げられる。それ以外の高校に関しては、学校側の担当者変更に伴う連携不足が考えられたため、年度後半に改めて打合せの機会を持った。引き続き利用対象学生に対する相談室の周知に取り組んでいきたい。

## ②泉区における就労困難な若者の社会参加促進事業

本事業は、泉区独自の委託事業として2013年度に始まり、2023年度で11年目を迎えた。区内在住の生活保護、生活困窮世帯の若者とその保護者を対象に、ケースワーカーや自立相談支援員、就労支援員との連携のもと、若者の社会的自立に向けた意欲や自信の向上、就労を含む社会参加の促進を目的とした支援を行っている。主な事業内容は区役所内での個別相談・家庭訪問である。

よこはまサポステの相談員2名が月に2～4回交替で泉区役所に出向き、生活支援課内の個室にて1日5枠（1枠50分）の枠組みで、担当ケースワーカーから利用を勧められた若者、保護者との個別相談を実施している。個別相談の実績を下表に示す。

## 出張日数

	2021年度	2022年度	2023年度
出張日数	32	42	36

## 個別相談・家庭訪問回数

	2021年度	2022年度	2023年度
個別相談回数（若者）	57	106	90
個別相談回数（保護者）	1	0	0
家庭訪問回数（若者・保護者）	6	3	8
計	64	109	98

利用人数（実数）

	2021年度	2022年度	2023年度
利用人数（実数）	14	18	21
うち新規利用人数	7	4	11
うちサポステ登録につながった人数	1	3	2

また、利用対象となる若者を担当するケースワーカー・自立相談支援員との相談も実施している。この相談では、ケースワーカー・自立相談支援員の方と出張相談利用が適切か否かの検討や、出張相談継続中のケースの進め方についての情報共有が行われる。

ケースワーカー相談件数

	2021年度	2022年度	2023年度
相談件数（ケースワーカー・自立相談支援員）	21	36	30

2023年度は様々な事情により出張日数は前年より減少したものの、実利用人数や新規利用者数は増加した。

また、本事業が11年目に入った今年度は、それまでの10年間の成果を泉区職員の方と振り返り、生活支援課と就労支援機関が連携して無業の若者を支援する意義を再考する機会となった。この経験から、例年泉区の職員向けに行われていた研修を「無業の若者と関わるヒント～就労支援に携わる心理職の観点から～」と題して全市の生活支援課職員を対象に開催させていただき、70名の方がご参加くださった。アンケート結果より、就労支援のアセスメントの観点の重要性、支援方針についてチームで話し合う良さといった意見が多数上がった。今後もこの取り組みを継続し、さらなる成果を上げていきたいと考えている。

以上のように今年度も多くの地域の関係機関の皆様と連携をさせていただいた。改めて心からお礼を申し上げたい。今後もサポートステーションの適切な理解を深め、円滑な連携を築いていくため尽力していく。

【文責：駒形直子】

## 2. 相談事業報告

### よこはまサポステにおける個別相談

---

よこはまサポステでは、個別相談を支援の軸とし、個々の利用者のありたい姿に近づけるよう、自己決定を尊重し、社会へとつないでいく支援を重視している。地域ネットワークとの連携（入口事業）やプログラム、就労体験を含む企業との連携（出口事業）など、サポステ内の他事業は個別相談の安定した基盤の上で、効果的かつ相互補完的に機能している。

### 相談事業のしくみ

---

相談事業の業務には、初回相談（インテーク）と継続相談、それらをサポートする仕組みである「コンサルテーション」と「振り返り面談」が含まれる。

初回相談では、本人の主訴と背景、現在の状況を丁寧に聴き取り、その人がもつ強みや課題などを見立てる。主訴の解消に向けて実現可能なステップを提示し、それを本人と合意することを目指す。その後の継続相談では、本人との信頼関係を築きつつ、方針に基づく具体的な方策を一緒に考え、必要な働きかけを行う。また、見立てと方針の見直しを常に行う。

### 新横浜サテライト

---

2018年7月より、横浜市北部地域（青葉区、都筑区、緑区、港北区）の利用者や支援者がアクセスしやすいよう、新横浜サテライトを開設している。サテライトでは、よこはまサポステと同様の支援を提供しているが、プログラムはよこはまサポステのみで開催しているため、参加希望者はよこはまサポステに来てもらっている。専任の相談員は配置せず、よこはまサポステの相談員が曜日交代でサテライトに出向き、相談業務を行っている。開所日は火～金の週4日とし、2023年度は8名が曜日交替制で勤務した。

### 相談実施状況（よこはまサポステ・新横浜サテライト）

---

コロナ禍は電話・オンライン相談を活用していたが、2023年度は原則対面相談で実施した。2022年度から原則対面相談への移行を進めており、対面相談の割合は2022年度に8割弱、2023年度は約9割に増加した。コロナ禍に体制を整えた電話・オンライン相談は、何らかの事情で対面相談が難しい場合に限定的に活用していくこととした。

2023年度の延べ個別相談件数は11,145件で、2022年度から大きな増減はなかった。

よこはまサポステ・新横浜サテライト 個別相談実績

延べ個別 相談件数	2021年度						2022年度						2023年度					
	よこはま サポステ		サテライト		計		よこはま サポステ		サテライト		計		よこはま サポステ		サテライト		計	
	対面 相談	オン ライ ン 電 話 ・ 相 談	対面 相談	オン ライ ン 電 話 ・ 相 談	対面 相談	オン ライ ン 電 話 ・ 相 談	対面 相談	オン ライ ン 電 話 ・ 相 談	対面 相談	オン ライ ン 電 話 ・ 相 談	対面 相談	オン ライ ン 電 話 ・ 相 談	対面 相談	オン ライ ン 電 話 ・ 相 談	対面 相談	オン ライ ン 電 話 ・ 相 談	対面 相談	オン ライ ン 電 話 ・ 相 談
本人	4,673	4,754	702	682	5,375	5,436	7,888	1,540	1,058	314	8,946	1,864	8,480	962	1,569	72	10,049	1,034
保護者	33	52	2	4	35	56	50	18	2	1	52	19	35	13	2	1	37	14
その他	5	14	0	10	5	24	8	5	0	0	8	5	8	2	0	1	8	3
計	9,531		1,400		10,931		9,931		1,457		11,378		9,500		1,645		11,145	

\*本人：本人との相談件数には、保護者やその他（支援者や学校関係者など）が同席した場合も含む。

\*保護者：保護者のみの相談件数を示す。

\*その他：その他（支援者や学校関係者など）のみの相談件数を示す。

## コンサルテーションと振り返り面談

### コンサルテーション

よこはまサポステのコンサルテーションは、相談員（コンサルティ）が担当ケースで「困った」と感じたときに、経験豊富な相談員（コンサルタント）に業務時間内に相談できる仕組みである。指導ではなく、助言をもらう機会として機能し、経験豊富な相談員の視点を知ること、相談員の負担軽減とスキルアップにもつながる仕組みである。

コンサルテーションの内容は、ケースの見立てや方針の検討、本人や保護者との関わり方、経済面や家族面の問題、心理検査結果の活用方法、医療機関へのリファラーなどであった。2023年度は管理職とリーダー職5名がコンサルタントの役割を担い、666件（法律コンサルを除く）実施した。

「法律コンサル」は、法人の顧問弁護士に法律に関わる困りごとをメールで相談できる仕組みである。2023年度は賃金支払いのトラブル、職場のパワハラ、住居の退去要請への対応などを相談した。相談件数は6件だった。

### 振り返り面談

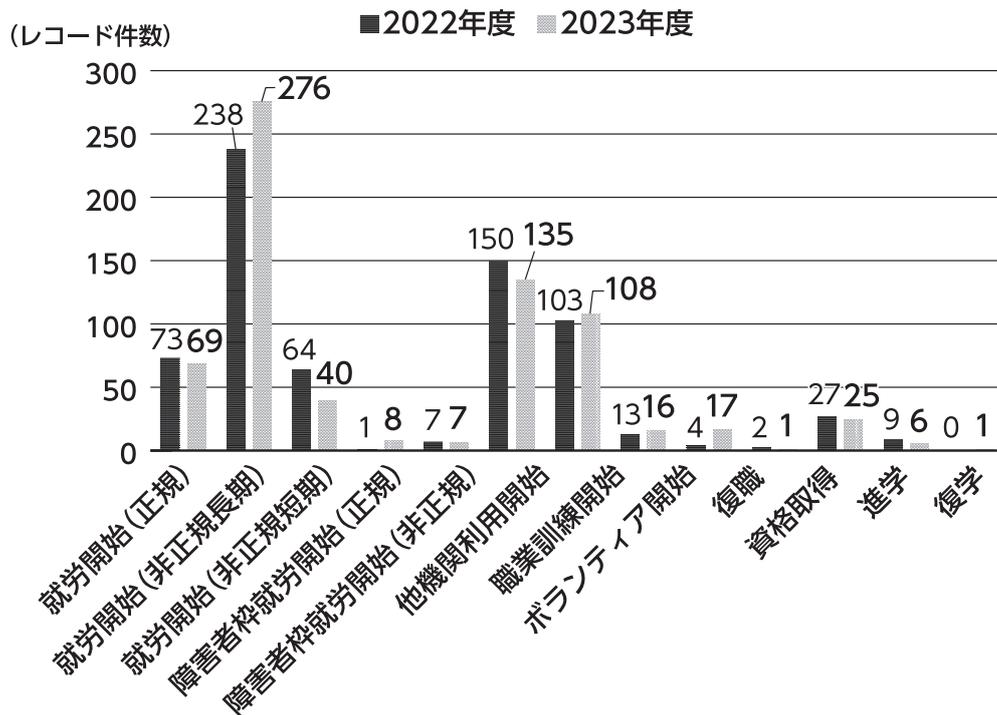
振り返り面談は、相談員が管理職と月に1回、1対1でケースを振り返る、スーパービジョンの意味合いをもつ取り組みである。全ての担当ケースについて、来所から3か月、半年、1年、その後は半年ごとに進捗や支援方針を確認し、必要に応じて指導を行う。相談員は振り返り面談を通じて、相談の経緯、見立て・方針、目標設定やそのプロセスを見直し、助言を受けるため、相談員の経験年数や専門分野に関わらず、すべての相談員が様々なケースに対応できるようになる。

## 個別相談における支援結果

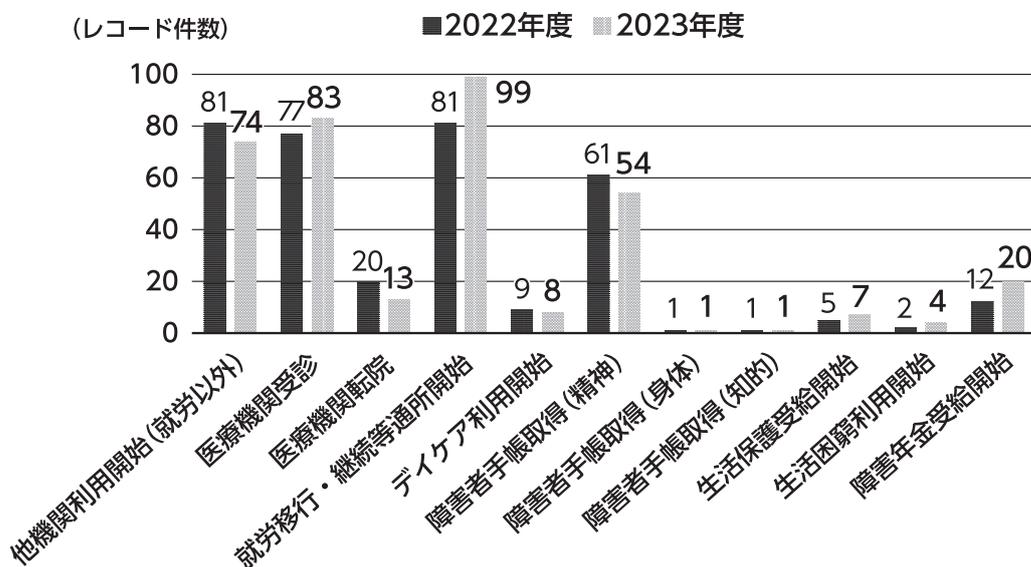
利用者の変化を捉える指標として、個別相談を通じて生じた変化や動きに関する件数を集計している。進路決定に関わる件数（正規雇用、長期・短期の非正規雇用、職業訓練、進学）に加え、よこはまサポステが独自に設定した項目も取り入れ、就労・進学関連13項目とその他11項目を設けている。

個別支援結果は、利用者の多様な変化を捉え、それに伴う支援実績を示すデータとして位置付けている。2023年度の件数を以下に示す。

■個別支援結果（就労・進学関連）※よこはまサポステ・新横浜サテライトケース合算



■個別支援結果（就労・進学以外）※よこはまサポステ・新横浜サテライトケース合算



就労に関わる件数では、正規雇用が69件、非正規雇用（長期）は276件に上った。職種別では、事務職が最も多く、次いで販売職、サービス業、製造業の順であった。また、就労決定の有無にかかわらず、支援開始以降に求人応募を始めた件数（応募開始）が135件に及んだ。

就労に関わる他の項目として、職業訓練開始が16件、ボランティア開始が6件、就労関連の資格取得が25件あった。就労に関わる他機関の利用状況では、各地域のハローワークと新卒応援ハローワーク、かながわ若者就職支援センター、東京しごとセンターなどが挙げられた。

## 第2章 2023年度事業報告

就労と進学以外の件数に関して、精神科・心療内科への受診開始が83件と、支援を通じて通院を始めたケースが多いことが明らかになった。また、精神障害者保健福祉手帳の取得が54件、障害年金の受給が20件、就労移行支援事業所や就労継続支援事業所、自立（生活）訓練事業所への通所も99件に上った。今後の就労や生活を考えるため、そして目標に向けての必要な方策として、受診や障害の受容、障害福祉サービスの利用に関わる支援を行うことも、よこはまサポステの相談における重要な役割といえよう。

【文責：津田容子】

## 3. プログラム事業報告

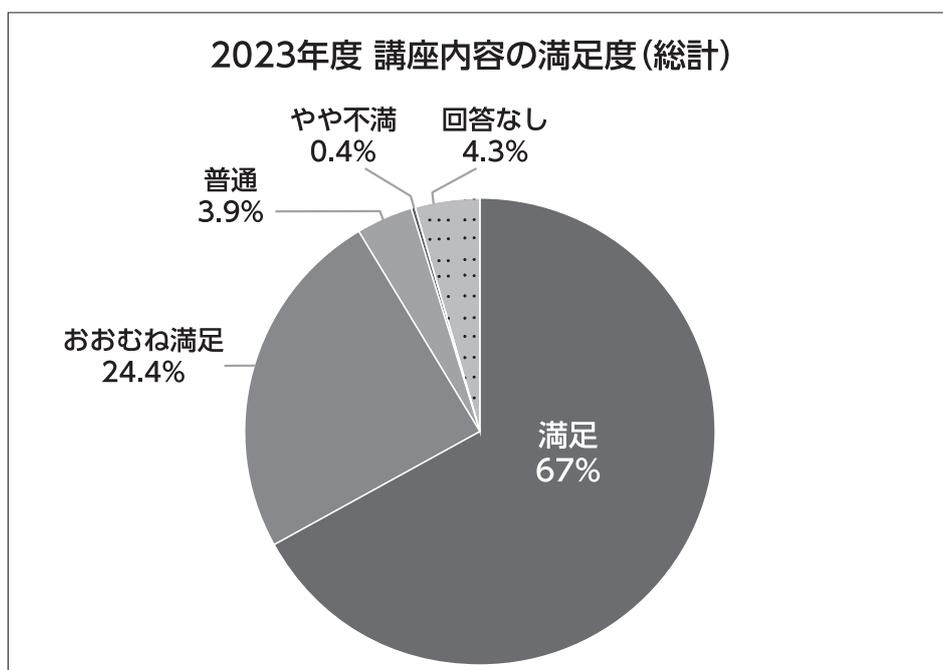
### 2023年度のプログラム実績

プログラム事業では「個別相談を補完し、誰もが利用しやすい安全かつ効果的な活動機会を提供する」との目標を掲げている。2023年度は全てのプログラムを対面形式で実施した。実施回数は計245回（1日に2枠開催したプログラムは2回としてカウント）、延べ参加人数は1,607人であった。延べ参加人数は2022年度の1,516人から81人増加し、コロナ以前の2018年度の1,435人と比較しても増加傾向にあった。プログラムごとの実施回数と延べ参加人数は後述の表に記載する。

### 講座内容に関する満足度

講座内容の評価指標として、2021年度より実施している「講座内容の満足度」アンケートの結果を示す。従来のアンケートは、参加した感想や気付き、次回への要望が主であったが、参加者の視点から講座の質を捉え、プログラム内容や運営の改善に活用することを目的に、アンケートの共通項目としてプログラム全体で導入している。当日の講座内容について、参加者は5件法（満足、おおむね満足、普通、やや不満、不満）で回答する。

2023年度のアンケート結果は下図の通りである。満足は67%（2022年度:62%）、おおむね満足は24%（2022年度:27%）と満足～おおむね満足との回答が約9割に上り、例年と変わらず高い割合を示していた。この結果から、講座内容が利用者のニーズや期待に概ね合致し、参加者の年代や背景、参加目的が多岐にわたる中でも提供するサービスの質として高い水準を維持できているといえよう。



\*回答なし：連続プログラムでの最終回欠席、早退等でアンケート記入なし  
\* GATB はアンケート実施なし

## プログラムの充足率

---

利用状況に関する指標として、各プログラムの充足率も算出している。充足率は、定員に対する申込人数の比率であり、2023年度のプログラム全体の年間平均充足率は78%（GATBはカウント外）であった。特筆すべきは、ストレッチ、SST、テーマトーク、Word講座、アル活（履歴書・応募電話編）、アル活（面接編）が80～92%と非常に高い充足率を達成していた。

上記の状況から需要の高さが窺える一方、先着順で早期に埋まってしまう、満席で「キャンセル待ち」状態になる、あるいは参加を断念するとの課題も生じている。

2023年度は「キャンセル待ち」申込者が、プログラム全体で延べ126人に上り、2022年の71人から大幅に増加した。2023年度当初に自己プロデュースセミナーとCBTは定員を拡大し、それらのキャンセル待ち人数は緩和したが、実施テーマが各回で異なるSSTは年間25人、継続的な参加希望者が多いテーマトークでは年間15人、学習需要が高いExcel講座は年間17人と、各プログラムの特徴も影響しつつ、月間平均5、6人は参加を希望するも受講できないケースが生じていると考えられる。

## 利用しやすい活動機会の提供に向けて

---

よこはまサポステのプログラムは、施設内での実施かつ相談員を兼務する担当者が運営に携わっているため、参加のハードルが低く、参加目的や配慮事項、参加時の様子など密な情報共有も行えるメリットがある。ただし、先述した需要の高さもあるため、できるだけ多くの利用者に必要な場面で活動機会を提供していくためには、運営側と相談員側の双方が「最適なタイミング」での利用を意識していく必要がある。

具体的には、利用者一人ひとりが最適なタイミングで最適な内容のプログラムにつながれるよう、相談員は見立てと方針をベースに、参加目的の確認と参加後の振り返り、次のステップに向けた働きかけを丁寧に行っていくことが求められる。また、運営側も参加目的を踏まえての参加時の様子、気付きを相談員にフィードバックする必要がある。このことは、限られた活動機会を公平に利用するだけでなく、効果的な支援という意味でも必要な意識付けである。引き続き、サポステ全体として効果的で効率的なプログラムの活用、運営に取り組んでいきたい。

## ＜2023年度プログラム実績＞

\*よこはまサポステ、新横浜サテライト合算

プログラム名	内容	実施回数	延べ参加人数
ストレッチ体操 講師：藤巻かおり先生	月2回、定員8名。講師のレクチャーのもと、身体を動かし、気持ちをほぐす機会を提供する。自分の身体と向き合う、体力の維持・向上に加え、集団場面に慣れるための練習機会としても機能している。	23回	149人
学びなおし 講師：小園一水先生	月2回連続講座、定員8名×2枠。国語、英語、数学（算数）の各科目を個別指導形式（1枠75分）で学ぶ。個々のペースで学習に取り組んでみることで、苦手なことへの挑戦、わからなかったことがわかるようになる体験、自分のできる部分に気付く機会にもなり、自信や自己肯定感の向上が期待される。	48回 *1枠1回で カウント	252人
CBT（認知行動療法）	月4回連続講座（4～10月）、定員8名。CBT（認知行動療法）の基本を学ぶ。臨床心理士有資格者の職員による講義と個人ワークを通じて、自身の考え方のくせや特徴を理解する。各自のくせを踏まえ、新しい考え方をしてみる、異なる視点から物事を見る機会を提供する。	40回	285人
SST（ソーシャル・スキルズ・トレーニング）	月2回、定員8名。職場におけるコミュニケーションについて、具体的に困る場面を想定したロールプレイを通じて、適切な対応を実践的に学ぶ機会を提供する。参加者同士のフィードバックも行い、自身のコミュニケーションの特徴や良い点を知り、自己理解を深めるきっかけにする。	24回	154人
のんびりテーマ☆トーク	月1回、定員8名。利用者同士が自由な枠組みで話す唯一の機会として、テーマに沿って自分の思いや体験を共有したり、他者の話を聞いて共感したり刺激を得たりする機会を提供する。複数人でのコミュニケーションに対する緊張や不安、会話に対する固定観念が和らぐことを期待する。	12回	82人

プログラム名	内容	実施回数	延べ参加人数
自己プロデュースセミナー 講師：杉本悟先生	月1回、定員15名。講師のレクチャーのもと、自己紹介や人前での発表、身体を使った表現など、日常で行い慣れていないことに挑戦する場を提供する。自己表現が苦手な人向けの講座として、各人からペア、複数人、演劇要素があるワークまで段階的に表現の幅を広げていく中で、人前での緊張や不安、失敗への恐怖が緩和する体験機会とする。	11回	110人
Word 講座 講師派遣：NPO 法人テレワークセンター横浜	月2回連続講座、定員8名。講師のレクチャーに沿って Word の基本操作を学ぶ。ビジネス文書とチラシ作成のワークを行う。	12回	126人
Excel 講座 講師派遣：NPO 法人テレワークセンター横浜	月2回連続講座、定員8名。講師のレクチャーに沿って Excel の基本操作（一部の基本的な関数を含む）を学ぶ。名簿作成とグラフ作成のワークを行う。	12回	144人
アル活セミナー（履歴書・応募電話編）	月1回、定員6名。仕事の選び方や履歴書の書き方、自己PRの考え方をレクチャー形式で学び、ロールプレイ形式で応募電話のかけ方を練習する。アルバイト応募の方法を実践的に知ることで、就職活動に対するハードルを下げる。	12回	57人
アル活セミナー（面接編）	月1回、定員3名×2枠。面接での立ち居振る舞い立ちや面接官とのやりとりをロールプレイ形式で練習する。実際の面接を想定した練習から初めての面接体験まで幅広く対応する。繰り返し練習することで緊張や不安を緩和し、具体的な応募活動へとつなげる。	24回 * 1枠1回で カウント	59人
働くまでの道のり	不定期開催、定員25名。様々な困難や挫折体験を背景に持ちつつ現在就労している方（主にサポステ卒業生）から、働くまでの流れや働いている現在思うことなどのお話を伺い、「何とかなるかもしれない」との希望、就労に向けた具体的なイメージを持つ機会を提供する。	3回	55人
GATB	一般職業適性検査を受検する。月2回、定員10名。	24回	106人
計		245回	1,607人

\*仕事セミナー（屋根づくり、IT、製造業他）は「出口事業」を参照のこと。

【文責：津田容子】

## 4. 出口事業報告

「出口事業」は、就労を目指すサポステ利用者と地域の事業所や企業をつなげる取り組みを行っている。具体的には、ジョブトレーニング、仕事セミナー、職場体験プログラム（シゴトライアル）、企業見学会といった様々なメニューから成る。2023年度の出口事業は、3名の職員が担当した。

### (1) 出口事業連携先の開拓

---

2023年度は、新たに37事業所との接点をもった。

登録3年目になる「かながわSDGsパートナー」の活動では、毎月実施される「かながわSDGsパートナー・ミーティング」に2回登壇し、働きづらさを抱える若者の支援についての発表や、企業交流会への参加を通じ、若者の体験受入れや採用を検討するパートナー企業との連携を図った。

また、社会福祉法人横浜市社会福祉協議会、公益法人横浜企業経営支援財団のご協力を賜り、横浜市内の複数の製造業の企業への訪問を経て、製造業2社での企業見学会を実施した（詳細は「特集 企業見学会」で後述）。

更に年度の後半より神奈川県中小企業家同友会での活動を再開した。横浜市を中心に中小企業との連携を深め、さらなる開拓に取り組んでいく。

出口事業の実績としては、新しく27事業所より連携へのご快諾をいただき、そのうち14事業所と出口メニューの実施に至った。具体的には、ジョブトレーニング6事業所、仕事セミナー2事業所、見学受入れ2事業所、見学会開催4事業所である。

### (2) ジョブトレーニング

---

よこはまサポステ開所当初から継続している仕組みである。一人ひとりのニーズに合わせて体験先や体験内容を個別にアレンジし、10回を1クールとして、最長30回までの職場体験を行う。複合的な課題を抱える利用者が挑戦することが多いメニューで、個別性の高いアレンジをする必要があるため、実施前にはそのケースの担当相談員と出口事業担当職員が、綿密に打ち合わせをしてから導入を決定している。1日3～4時間、週2日～3日程度の頻度で取り組むケースが多い。職種は多岐にわたっている。2023年度の実施件数は56件（延べ実習日数725日/36事業所）で、実施件数は増加した。

ジョブトレーニングを経験した利用者の多くは、仕事への不安が軽減する、自分の得意不得意を理解して就職活動の方向が定まる、働く自信を得て応募活動を開始するといった変化を遂げる。また2023年度は体験者のうち9名が、ジョブトレーニング先で採用されるに至った。

### (3) 職場体験プログラム（シゴトライアル）

人材を求める企業と連携して、体験のみではなくアルバイト就労への移行を前提とした職場体験プログラムを作り、「シゴトライアル」と名付けて実施している。利用者はアルバイト応募前提で体験に参加し、5日間の体験終了後に双方の合意があればアルバイト就労へと進む。2023年度は全9回実施した。実施業界はスーパー、リサイクル品販売であり、職種は倉庫作業、店舗バックヤード作業であった。

#### シゴトライアル概要

	内容
初日研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリアにおけるアルバイト経験の意味</li> <li>・労働法の基礎知識</li> <li>・体験先業界案内</li> <li>・アルバイトのルール</li> <li>・ビジネスマナーの基礎</li> <li>・職場見学</li> </ul>
職場体験	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1日4時間/連続5日間</li> <li>・毎日企業担当者の同席のもと振り返りを行う</li> <li>・実習記録の作成と企業担当者からのフィードバック</li> </ul>
評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・採用、不採用の結果と全般的なフィードバック</li> <li>・企業担当者から「笑顔・挨拶」「作業効率」「自主性」について5段階評価と評価の根拠を記載していただく</li> </ul>
労働条件の確認	体験先で就労が決まった場合は、本人、企業担当者、サポステ担当者の3者で労働条件の確認を行う。

#### シゴトライアル実績

実施回数	参加者数	修了者数 (途中辞退者除く)	就業者数	就労決定率 (就業者数/修了者数)
9	29	27	18	66%

#### (4) 仕事セミナー

仕事セミナーとは、所内で開催するセミナーで職業紹介、業界紹介などを行い、その後に希望者に対して、現場見学、採用面接の枠組みを案内し、就職へとつなげていく仕組みである。2023年度は下記のセミナーを実施した。

若者の人材が不足している業界からは、サポステでのセミナー開催を希望する企業は多い。よこはまサポステとしては、利用者のニーズのある職種との一致度と、企業側の働きづらい若者への理解や配慮を確認した上で、実施を依頼している。

セミナー職種	セミナー実施回数	延べ参加者数	応募者数	就業者数
屋根づくり	2	6	1	1
外壁工事	2	11	0	0
環境サービス	4	28	1	1
製造業	4	32	1	1
警備	1	4	0	0
介護	4	13	2	1
派遣の働き方	4	29	1	1
技術職	1	15	0	0
IT*	1	6	—	—
小売（スーパー）	1	11	1	0
合計	24	155	7	5

※応募の枠組み無し

#### (5) 企業見学会

仕事セミナーが職種や業界の知識を深めることを主要な目的の一つとしているのに対して、企業見学会は、求人募集がある企業と応募したい利用者とをマッチングするイベントとして開催している。参加者が直接企業に見学に行くため、仕事の内容や働く人々の様子を実際に見て、知ることが出来る。それによって参加者は仕事内容が明確にイメージでき、働く実感を持って応募に進み、入社後のミスマッチ防止にもつながる。企業側にとっても、短時間で多くの若者に直接出会うことができ、書類選考のみでは分からない、それぞれの人となりを知ることができるため、開催企業の方からも好評をいただいている。

2023年度は、看板製作その他1社、製造業2社で実施した。（製造業2社については「特集 企業見学会」で述べる）

開催企業数	参加者数	就業者数
3	17	0

## (6) まとめ

出口事業による2023年度の就労決定実績、及び例年との比較は以下の通りである。

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
ジョブトレーニング	9	6	6	5	9
シゴトライアル	17	3	11	14	17
仕事セミナー	12	3	7	8	5
企業見学会 / 説明会	5	8	3	6	0
求人その他	—	—	—	11	5
就業者数合計	43	20	27	44	36

2023年度の出口事業では、ジョブトレーニング実施件数の増加（56件 / 前年より11件増）が顕著であった。これに伴い、ジョブトレーニングを通じた就職件数が増加した。またシゴトライアルを経ての就職件数も増えている。その反面、仕事セミナー、求人案内といったメニューによる就職件数は減少した。

昨年度の求人市場に目を向けてみると、全体求人数は増加し改善傾向であるものの、即戦力が求められるために職歴が少ない方は依然として採用面接では不利である。そのような方にとって、職歴の多寡に関わらず働く力をアピールすることができる職場体験の機会は大変有効である。就職件数が増加した2つのメニューは、就労開始前に職場体験が行われており、サポートステーションを利用する方にとって、有効なメニューを提供できていると考える。

職場体験は、求職者が実際の業務や職場環境を体験することで、自身に適した職種や企業を見つける助けとなる。また、企業側も求職者の能力や適性を評価し、採用の決定に役立てることができる。このように、職場体験は双方にとってメリットが大きな手段であり、求職者と企業とのマッチングを促進する有効な方法といえる。

出口事業では引き続き、メニューの実施を若者本人と企業の方の相互理解の機会ととらえ、多様な働き方、多様な活躍の場が今後も更に増えていくよう取り組んでいく。

【文責：駒形直子】

## (特集)：「私たちの声」から実現した企画－企業見学会

よこはまサポステでは2022年度に、生きづらさを抱える若者のリアルな思いや求めるサポートを社会へ届けることを目的に「私たちの声を届けよう！プロジェクト」を実施した。

(詳細はHP「私たちの声を届けよう」<https://youthport.jp/voices/>を参照いただきたい)

### 私たちの声を届けよう！プロジェクト

<https://www.youthport.jp/voices/>



アンケートと利用者座談会、利用者&企業ワークショップで構成された本プロジェクトには、延べ140名の若者が参加した。

若者たちから集まった社会や仕事に関する意見「いろいろな会社や仕事と出会い、人生をやり直すきっかけがほしい。」「職場見学や体験ができるとうれしい。働くことの練習にもなるし、どんな方向に進むのかのヒントにしたい。」「交通費の工面が難しく職場見学を躊躇する人もいる。」を基に、2023年度は製造業の企業見学会を企画、実施した。

実施にあたっては、本プロジェクト共催の社会福祉法人横浜市社会福祉協議会に加えて、新たに公益法人横浜企業経営支援財団のご協力をいただき、横浜市内の複数の製造業の企業を訪問し、協力をお願いした。その中から、本プロジェクトにご理解をいただいた、株式会社ハルツ様、ニイガタ株式会社様が、若者のためにと企業見学会の受け入れにご尽力下さった。

また、企業見学会の参加に要する交通費は、横浜市社会福祉協議会が行う寄付を活用した支援事業（ヨコ寄付）から補助をいただいた。

#### 株式会社ハルツ様

2023年7月5日、株式会社ハルツ様のご協力により、企業見学会を実施いたしました。

現場社員の方による会社説明と現場見学、社長や社員の方への質問タイムからなる充実した見学会となりました。



ご参加の方からは「自分が今まで見たことが無い機械を見ることが出来た」「機械がそれぞれ何のためにあるのか、どのような工程を経て金型が完成していくのかを詳細にご説明頂きとても興味深かった」「製造業への就職に参考になった」といった感想が聞かれました。

## ニイガタ株式会社様

2023年9月22日、ニイガタ株式会社様のご協力により、企業見学会を実施いたしました。

現場社員の方による会社説明と企業内見学、渡辺社長との個別面談タイムからなる充実した見学会となりました。

ご参加の方からは「丁寧に会社のことを説明してもらった」「企業HPにない生の声をきけたのはとても参考になった」「社員の方が会社についてポジティブに語っていたことが印象に残った」といった感想が聞かれました。



## 別添：認定 NPO 法人ユースポート横濱の活動報告

---

---

別添として、よこはま若者サポートステーションの運営団体である、認定 NPO 法人ユースポート横濱の 2023 年度の活動について記す。

---

---

### 「認定 NPO 法人ユースポート横濱」になりました

特定非営利活動法人ユースポート横濱は、2024 年 1 月 31 日付で「認定 NPO 法人」として認定されました。“認定”NPO 法人とは、運営組織や事業活動が適正であり、公益の増進に寄与する団体として、一定の要件を満たし、都道府県知事や指定都市の長からの認定を受けた団体のことです。

2006 年 9 月に NPO 法人を設立し、同年 12 月によこはま若者サポートステーション事業を受託しました。これまで 17 年間の安定した運営により、この度“認定”を得ることができました。心より感謝申し上げます。

私たちの法人は、「孤立状態にあることで困難を抱えている人に対してその人がありたい姿に近づけるよう就労や生活に関する支援をし、支援を通じて発見した課題に取り組むことによって、社会に貢献すること。」というミッションを掲げています。今後も皆様のご支援とご協力を賜りながら、社会に貢献できるよう努めてまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

---

---

# 1. ユースサポート・ユースワークふじさわの受託・開設

ユースポート横浜は、2023年4月より、藤沢市産業労働課及び青少年課の委託事業である「ユースサポート・ユースワークふじさわ」（藤沢市若者サポート事業・若年者就労支援事業）を受託し、運営することとなった。

ユースサポート・ユースワークふじさわは、仕事のこと、学校のこと、ひきこもりなど、社会生活に困ったことや不安を抱える若者の自立・就労を支援する相談機関である。法人が受託する就労支援、若者支援に関わる相談機関として、よこはま若者サポートステーション、新横浜サテライト（地域若者サポートステーション事業）に続く、3つ目の拠点となる。

支援対象は、藤沢市内在住、在勤、在学の15歳から44歳までの方とご家族である。担当者制の個別相談を主軸として、一人ひとりの状況に合わせたきめ細やかなサポートを提供することを特徴とする。具体的な支援内容は、個別相談の他、プログラム、居場所、社会体験（ボランティア）、就労体験、家族セミナーや家族交流会などを実施している。相談は予約制で、費用は無料である。2023年度は8名の職員が曜日交替制で勤務した。いずれもよこはま若者サポートステーションでの支援経験を有する職員である。

藤沢市での新たな事業運営と支援活動において、横浜市での経験を基盤としながら、その地域性を深く理解し、日々の運営に活かすことが重要と考える。また、個別ケースなどの連携を通じて、地域の他機関や企業との顔の見える関係を築き、地域とのネットワークを構築していくことが求められる。

2023年度は受託初年度として、受託団体変更に伴う周知活動や施設内のレイアウトなどの開設準備から始まった。新たな利用者の受け入れ、プログラムと居場所の開始、支援者や家族を対象とした施設説明会の開催、支援メニューである社会体験・就労体験、家族セミナーや家族交流会、出張相談の実施など、多岐にわたる活動を通じて、地域とのつながりを築き、支援体制の基盤づくりに力を注いだ1年であった。

詳細な報告については、別途作成予定のユースサポート・ユースワークふじさわ2023年度報告書を参照いただきたい。

## ユースサポート・ユースワークふじさわ

<https://www.youthport.jp/fujisawa/>



## 2. 「ユースポート横濱 ロジックモデル」の作成 ～社会的価値の可視化を目指して～

ユースポート横濱では、法人の活動意義を職員全員で可視化、共有し、その意義や社会的価値を外部に分かりやすく伝えるため、また継続的に事業を見直すためのツールとして、2020 年度からロジックモデルの作成に着手している。この取り組みは、社会への情報発信力を強化し、事業の継続、拡大のために理解者、協力者を増やすことに寄与している。

2020 年度には、神奈川県 SDGs 社会的インパクト・マネジメント実践研修に参加し、「よこはま若者サポートステーションのロジックモデル」（2023 年度版は 10 ページを参照）の作成に取り組んだ。2021 年度には、神奈川県が主催する「かながわ SDGs パートナー」に登録した。これは SDGs の推進に資する事業を行っている企業や団体の取り組みを神奈川県が支援し、共に普及促進活動に取り組む制度である。ここでの取り組みにより、他の登録企業や団体に働きかける機会が広がり、若者支援に向けた協力体制が拡大した。

2023 年度には、よこはま若者サポートステーションという単一の事業の枠を超え、法人が運営しているすべての事業を対象とする「ユースポート横濱 ロジックモデル」の作成に着手した。このロジックモデルは、法人の使命や価値観を反映し、活動の成果やアウトカムを示すだけでなく、法人全体の活動の意義を包括的に捉えることができるものである。「よこはま若者サポートステーションのロジックモデル」と「ユースポート横濱 ロジックモデル」との関係性は、法人全体のロジックモデルの下部に個々の事業のロジックモデルが位置する形となる。

法人全体のロジックモデルを作成するにあたり、2023 年 8 月 21 日に全職員 23 名が参加するワークショップを開催した。外部講師として、明治大学公共政策大学院ガバナンス研究科の源由理子教授をお招きした。このワークショップは「ロジックモデル作成ワークショップ～事業の意義を確認し、改善・継続・拡大につなげるために～」と題して行われ、講師の講義とファシリテーションのもと、法人がどのようなアウトカムを目指し、そのためにはどのような作戦や手段が有効かについて、ロジックモデルの枠組みを用いて職員全員で議論する形で行った。



### ロジックモデルの枠組み（源先生の講義資料より引用）

①最終アウトカム／ゴール：事業の実施により解決したい社会的課題、あるいは創造したい社会的価値。なぜこの事業を実施するのかを表する（目指すべきアウトカムが明確でなければ、効果的な戦略や活動は考えられない）。

②中間アウトカム：最終アウトカムを達成するために貢献する作戦目的。目的を達成するための手段として、複数の作戦が考えられる。

③直接アウトカム：事業・活動によって直接達成する目的で、中間アウトカムの達成に必要なもの。

具体的には、まず、職員一人ひとりが、上記に関わる意見を、1枚につき1つの意見としてポストイットに記載し、模造紙に貼り出す。貼り出された意見について、誰が書いたかは問わず、一つ一つ「私たちの意見」として取り上げる。それぞれのアウトカムとそのロジックの繋がりについて対話や議論を重ねていった。



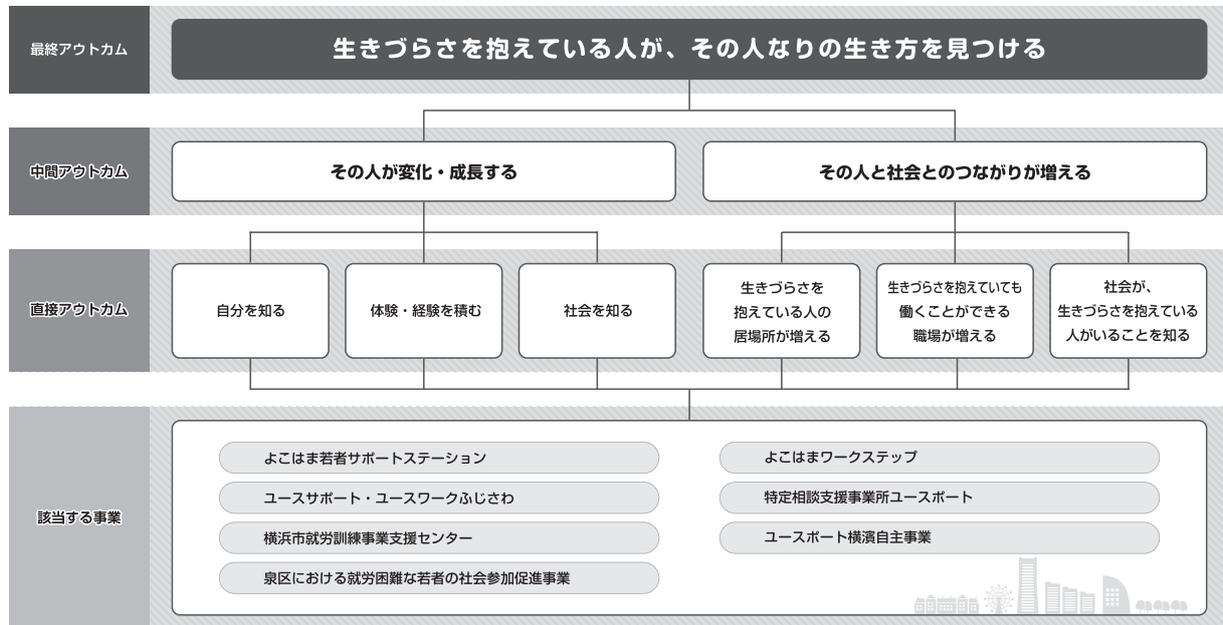
講義を含むワークショップ全体で合計 250 分を要したが、その場で各アウトカムを集約し、ロジックモデルの完成には至らなかった。そのため、統括職員 4 名で議論を継続し、翌月の全体会議で職員全員での検討の場を再度設けた。そして、最終アウトカムは「生きづらさを抱えている人が、その人なりの生き方を見つける」に決定した。次頁に完成した「認定 NPO 法人ユースポート横濱 ロジックモデル」を示す。

このように法人のロジックモデルを作成することにより、法人が取り組む事業の意義や社会的価値を明らかにすることができた。また、ワークショップやその後の会議でも職員間で対等に意見を出し合い、話し合うプロセスを経たことで、事業ごとではなく、法人全体としての取り組みへのコミットメントが高まる効果も得られたと考える。2024 年度以降は、ロジックモデルにおけるアウトカムの指標を設定し、データ収集を行いながら、「評価」を通じて事業のさらなる改善を図っていききたい。

## 認定NPO法人 ユースポート横濱 ロジックモデル

ここにいるその人を大切に  
ユースポート横濱

社会には、その姿が見えにくいままに生きづらい状況に置かれている人がいます。  
その人は、お金に困っていたり、学校や職場でつらい経験をしていたり、家庭が安心できる場ではなかったり、一人きりで孤独を感じていたり、病気や障害を抱えていたりします。  
また、人や社会に対する信頼を失ったり、自己責任だと自分を追い詰めていたりすることで、安心して過ごせる場所を見つけられない、将来に対する希望を持ってない状況にもつながっています。  
さらに、社会的に孤立すると、多くの人が当たり前に行っている経験をする機会を逃し、必要な情報、選択肢にアクセスすることも難しくなります。  
一つの“正しい”生き方が存在するわけではなく、特定の生き方を社会が課すものでもありません。  
ユースポート横濱は、このロジックモデルに基づき、生きづらさを抱えている人がその人なりの生き方を見つけ、実現するためのサポートをしています。



※ 本モデルは、明治大学公共政策大学院ガバナンス研究科 源由理子教授のファシリテートのもと、法人職員を対象としたワークショップ形式で作成した。

## 3. 全体会議研修報告

### 全体会議研修報告

ユースポート横濱では、全職員が参加する全体会議を毎月 1 回開催している。この会議は、職員同士が顔を合わせ、法人や施設運営に関する実績報告や情報共有、職員が参加した外部研修の報告、支援に必要な研鑽を行う場として機能している。

研修内容として、毎月のケース検討に加え、職員あるいは外部講師が企画・実施するテーマ別研修を年間 11 回実施した。以下にその内容を挙げる。

#### ■ケース検討（毎月）

テーマ	PCAGIP 法による事例検討
目的	援助専門職に適した新しい事例検討法とされる PCAGIP (Person-Centered Approach Group Incident Process) 法：簡略な資料をもとに参加者全員で事例理解を深める形式で、簡便かつ相談対応に資する形での事例検討を行う。主役は「事例」ではなく「事例提供者」であるとの PCAGIP 法の趣旨に則り、ケース運営をする相談員に資する検討の場とする。
手法	相談員 2 名が 1 ケースずつ事例提供を行い、2 グループに分かれて検討する。「事例提供者を批判しない、メモはとらない」との共通ルールのもと、1 人 1 問ずつ質問を重ねる中で、事例の詳細をグループ全体で共有する。検討の結果、支援や関わりについての多様なヒントが出ることを目指す。
時間	70 ～ 90 分

\*参考文献：村山正治・中田幸重（2012）新しい事例検討法 PCAGIP 入門 パーソン・センタード・アプローチの視点から 創元社

#### ■テーマ別研修

##### ①外部講師研修

テーマ	障害者雇用の現状
講師	就労移行支援事業所 Kaien 東神奈川 岩野様・赤阪様
目的	よこはまサポステのケースで検討することの多い障害者雇用制度、就労移行支援事業について、制度の最新の状況について知識を深める。
手法	外部講師によるレクチャーと質疑応答
時間	120 分

テーマ	事例検討会（定例）
講師	中村心理療法研究室 精神科医師 中村伸一先生
目的	外部の専門家を招いたサポステのケース検討を行う。検討を通じて、精神医学や心理学、家族療法といった専門的な視点を取り入れたアセスメントスキルの向上を目指す。相談のやりとりや関係構築、プロセスの重要性に関する理解を深める。
手法	1つの事例を職員全員で丁寧に検討する。事例提供者は事前に資料を作成し、検討希望点、事例の概要、面接経過を発表する。その後、講師と参加者からのコメントや質疑応答を行う。
時間	120分

## ②ロールプレイ研修

テーマ	ロールプレイ道場（定例）
目的	相談場面のロールプレイを通じて、相談員役と利用者役の両方を体験し、利用者を個々の人格として深く理解し、相談員自身が本人とともに「今ここにいる」感覚を持てることを目指す。実際の相談場面で直面する様々な問題を体験的に学ぶ。
手法	職員を3グループに分け、各グループにファシリテーターを配置。グループごとに体験目的と課題を設定し、架空の事例や実際のケースを参考にロールプレイと振り返りを行う。
時間	120分

テーマ	「死にたい気持ち」の取り扱いについて（定例）
目的	利用者にとって身近な相談者であるサポステの相談員が、利用者の死にたい気持ちを最前線で受け止める場合も少なくない。危険性を感じた場合の相談の仕方、利用者やその周囲で自殺が起こった場合の対応、ケアについて実践的に学ぶ。
手法	公認心理師有資格者による講義とロールプレイの実施。自殺に関する現状、死にたい気持ちやその背景、死にたい気持ちを打ち明けられた場合の具体的対応に関する講義を行う。実際の相談場面を想定して危険度のアセスメントや対応をロールプレイで体験する。
時間	180分

## ③相談支援に資するスキルアップ研修

テーマ	個人情報保護研修（定例）
目的	個人情報の管理がなぜ必要かと「法人職業倫理綱領」「ソーシャルメディア使用上の規定」「個人情報保護法」等の個人情報に関わる方針・既定の再確認を行う。事例も用いて具体的な運用上の注意点、漏えい等の事案が生じた場合の対応についても職員全員で共有する。
手法	講義形式
時間	90分

テーマ	相談員のための自己点検ワークショップ（定例）
目的	相談員である自身が現状でどのような課題を抱え、どんな強みを持ち、どのようなスキルアップを図るとよいかの検討の場を設ける。相談員としての自身を把握・分析する、日々の相談業務における成長や変化、学びについて客観的に振り返る、自身に固有する特徴（長所、短所の両面）について知ることを目的とする。
手法	講義と個別ワークの実施。相談員のスキルとは何か、また経験年数によってどんな変化が生じるかの研究知見も参照した講義を行う。講義で扱った情報やその他相談員に求められるスキル、よこはまサポステで重視する点をもとに作成した「自己チェックシート」を用い、相談員としての自身を振り返る機会をもつ。
時間	120分

テーマ	その人なりの生き方を見つけるために—動機づけ面接の観点から得られるヒント
目的	サポステ利用者には働く必要性を感じつつも働けない、働きたくないといった葛藤を抱える人、希望を持ってない、無気力状態にある人など様々な状況の人がいる。相談を通じて、その人なりの生き方を考える上では、柔軟なやりとり、働きかけが求められる。既存の理論から工夫のポイントを学ぶことで、変化への足がかりをつかむヒントを得る。
手法	臨床心理士有資格者による講義とロールプレイを実施する。対人援助理論である「動機づけ面接」の考え方を学び、相談時のやりとりにおける工夫として、上記のスキルを必要な場面で適切に活用できるようにする。ロールプレイでは「変化」に焦点を当てた働きかけを体験する。
時間	120分

テーマ	相談ツールを知ろう・活かそう
目的	方針の検討や働きかけを行う際には、利用可能な情報の把握、知識のばらつきを防ぐことが重要である。本研修では「相談ツール」として、相談に関わる支援機関や窓口、検査、ウェブサイト、書籍、プログラムなど、幅広い情報を取り上げる。ワークを通じて、職員全員が共有できる情報リストを作成し、情報の引き出しを充実させることを目指す。
手法	「相談ツール」を紹介し、その活用法を柔軟に検討する。また、各相談員が把握しているツールを共有リストに加える。そのリストを用いて架空の事例を検討する中で、これまで使用したことのないツールを積極的に取り入れ、新しい発想やアプローチを生み出す体験をする。
時間	120分

テーマ	サポステ支援で使えるキャリア発達理論—不安定・不確定の中で未来を考える
目的	利用者の中には安定をよしとする価値観に囚われ、不安定で不確実な現状に適応して自身のキャリアを考えていくことをあきらめてしまう方が多くいる。「転機」や「計画的偶発性理論」などのキャリア発達理論の視点を相談に取り入れることにより、より柔軟で適応的なキャリアの考え方を利用者に提案できるようになることを目指す。
手法	キャリアコンサルタントによる講義とワークを実施する。ワークではキャリア発達理論を活用して個々の相談員が担当ケースの見立て、方針を立てる体験をする。
時間	120分

④ワークショップ

テーマ	ロジックモデル作成ワークショップー事業の意義を確認し、改善・継続・拡大につなげるために
講師	明治大学公共政策大学院ガバナンス研究科 源由理子教授
目的	運営している複数の事業を網羅した法人全体の活動の意義を明確化にし、対外的に分かりやすく伝えるツールとするため、法人のロジックモデルを作成する。
手法	講師によるロジックモデルに関する講義と職員全員で議論するワークショップ（詳細は別添「2. 「ユースポート横濱 ロジックモデル」の作成～社会的価値の可視化を目指して～」に記載）。
時間	250分

【文責：津田容子】

ここにいるその人を大切にする

## ユースポート横浜

### 認定 NPO 法人ユースポート横浜 法人概要

■設立 2006年9月

■沿革

2006年9月	法人設立
2006年12月	よこはま若者サポートステーション事業受託・開所
2013年4月	泉区における就労困難な若者の社会参加促進事業 受託
2014年4月	生活困窮状態の若者に対する相談支援事業（よこはま若者サポートステーション 拡充事業）受託
2014年8月	横浜市就労訓練事業支援センター運営事業 受託
2015年6月	特定相談支援事業所ユースポート 開設
2021年5月	横浜市就職氷河期世代相談サポート付集中プログラム事業 受託
2023年4月	藤沢市若者サポート事業・若年者就労支援事業（ユースサポート・ユースワーク ふじさわ）受託・開所
2024年1月	認定 NPO 法人格取得

■法人使命

孤立状態にあることで困難を抱えている人に対して、その人がありたい姿に近づけるよう就労や生活に関する支援をし、支援を通じて発見した課題に取り組むことによって社会に貢献すること

---

### Empowerment 第 17 号 (よこはま若者サポートステーション 2023 年度報告書)

---

2024年5月30日発行

発行元 認定 NPO 法人ユースポート横浜

発行／編集責任者 理事 津田 容子

連絡先 〒220-0004

横浜市西区北幸 1-11-15 横浜 ST ビル 3 階

TEL 045-290-7234

FAX 045-290-7235

---

本文の無断転用・転載を禁じます。

©YouthPort Yokohama 2024

# よこはま若者サポートステーション

2023 年度報告書 Empowerment Vol.17

